

倉田 久
KURATA Hisashi

■ 専門分野

経営システム科学分野・Operations Management (OM), Service Operations, Retail Operations

■ 指導可能な研究テーマ

数理モデル分析の手法を用いた製販連携の分析, 製品とサービスの連携, 価格バンドリング, 過剰サービス抑制モデルの構築, チャネル競争・ブランド競争の理論研究

■ 過去に指導した学生の修士論文題目

横浜国大では未だ修士号取得者を研究室から出しておりません.

ご参考までに前任校（筑波大学システム情報工学研究科）での指導学生の修論題目の例をご紹介します：

- ・ Supply Chain Coordination for Fashion Products: The Effect of Sustainable Investment on Two Contracts
- ・ Competition Between Store Brand and National Brand Considering Consumer Environmental Awareness

■ 修士論文作成のための必読文献リスト

まずは OM の基本知識を習得するために以下の標準的教科書の記載内容の理解をお勧めします.

- ・ Cachon, Gerald and Christian Terwiesch, (2018), Matching Supply with Demand: An Introduction to Operations Management (4th edition), McGraw-Hill, NY:NY. ISBN-13: 978-0078096655.
- ・ Hopp, Wallace J. and Mark L. Spearman, (2007), Factory Physics (3rd ed.), Waveland Pr Inc, Long Grove:IL. ISBN-13 : 978-0072824032.
- ・ Simchi-Levi, David, Xin Chen, and Julien Bramel (2016), The Logic of Logistics: Theory, Algorithms, and Applications for Logistics Management, Springer, NY:NY. ISBN-13: 978-1493950218.

既に OM の基本知識を習得している学生さんには, 次の「修士論文作成に向けた履修推奨科目」に私が列挙した科目の中級レベルの本を読んで頂きたいです. またゼミナールでは論文輪読が主体となります. 以下の OM/SCM 分野の有名研究者の論文を日ごろからしっかりと読むことをお勧めします.

Gerald Cachon (Wharton), Wallace Hopp (Michigan), Xuanming Su (Wharton), Christopher Tang (UCLA)

■ 修士論文作成に向けた履修推奨科目

特定の科目名は出ませんが、以下の分野の学部前期レベルの知識をもっていることが望ましいです。基礎知識が無くても入学後に頑張ればよいのですが、そのような場合には修了年限が予定より長くなる可能性が高いことはご了承ください：

- ・オペレーション・リサーチ Operations Research
- ・オペレーション・マネジメント Operations Management
- ・サプライチェーン・マネジメント Supply Chain Management
- ・ミクロ経済学（特にゲーム理論） Microeconomics (in particular, Game Theory)
- ・統計学 Statistics
- ・コンピュータ・プログラミング Compute Programming
- ・コンピュータ・シミュレーション Computer Simulation

■ 博士課程後期での研究指導実績

【過去に指導した学生の博士論文題目（学位取得年月）】

横浜国大では博士号を出したことがございません。

■ その他

事例研究（例：特定の企業の戦略や組織）、実証研究（例：アンケート調査に基づく研究）、地域研究（例：中国企業の経営）、サブカルチャー（例：漫画、アニメ）は私の専門ではございませんので指導不可です。言い換えますとそのような研究計画を送った時点で私が採用する可能性はゼロです。それらの領域をご専門とする先生は数多くいらっしゃるのをごちんにコンタクトをお願いします。

前述のとおり私の専門は流通システムやサービスシステムの数理モデルを用いた理論研究となります。必要であれば論文リストをお送りしますので、そこで論じられている研究を発展させるかたちで研究計画書を作成してもらいます。（以上）